

としょかん つうしん

11月号

11月号は「日本のむかしばなし」です。みなさんが知っているおはなしでも、絵本で読んでみると今までと違った印象があるかもしれません。ぜひご活用ください。



「にんじんさんがあかいわけ」

年少向け

松谷みよ子ぶん ひらやまえいぞうえ
童心社

にんじんさんとごぼうさんとだいこんさんがお風呂へでかけたって。それぞれお風呂の入りかたの違いに、ああ納得。やさいたちが、お風呂へでかける様子がほほえましく、語りかけるような文に、ほのぼのとした絵がとてもよく合っています。最後の「とっぴんぱらりのぷう」のことばにも味わいがあります。



「かにむかし」

年中向け

木下順二文 清水崑絵
岩波書店

柿のたねを拾ったカニがせっせと育てた柿の木に、サルがやってきて柿の実を一人占めしてしまいます。サルが投げた青い実でカニはつぶれ、その子カニたちが仲間を集めて親カニのかたきうちへとむかいます。方言のあるお話と、のびやかな墨の絵が魅力の絵本。サルをみんなで痛い目にあわせていくシーンはテンポよく楽しめます。



「だいくとおにろく」

年長向け

松居直再語 赤羽末吉画
福音館書店

流れのはやい大きな川に橋をかけることを頼まれた大工。困っていると、突然あらわれた鬼に目玉をよこせば橋をかけてやると言われるが…。横長の絵本いっぱい描かれた鬼の絵は迫力があり、昔話らしい渋い感じと色彩の美しさが際だつ絵本です。短いお話のなかにも起承転結があり、鬼と大工の絶妙なやりとりがおもしろい。